

1904年(明治37) 聖路易 (St. Louis) 万国博覧会出展の 「大日本帝国交通地理模型」(1:100,000) について

長 野 覺

- I. まえがき
- II. セントルイス万国博覧会開催の背景と目的
- III. 「大日本帝国交通地理模型」の出展意図とその製作
 1. 「大日本帝国交通地理模型」の出展意図
 2. 地理教育者・釜瀬新平の「大日本帝国交通地理模型」受注経緯
 3. 地理模型製作上の難題とその対策
 4. 地理模型製作の組織・内容・材料・輸送などの実態
- IV. セントルイスにおける釜瀬新平の「日本地形論」講演と「地理模型」の評価
 1. 「大日本帝国交通地理模型」と関連した日本地形論
 2. 「大日本帝国交通地理模型」の評価
- V. あとがき

I. まえがき

1890年(明治23)4月、第3回内国勸業博覧会の見学に上京した福岡県師範学校生の釜瀬新平(1868年:明治元年生まれ)は、帝室博物館(現、国立博物館)で1872年(明治5)にロシア皇帝から寄贈された直径5尺の大地球儀や、教育博物館(現、科学博物館)でドイツ製の美しい世界六大州別地理模型に接し、地理教育に模型の必要性を痛感したことが、地理模型研究の最初にして最大の動機となった¹⁾。師範学校を卒業後、郷里の福岡県宗像郡内の小学校訓導・校長を経て母校師範

学校の訓導となっている。この間の地理教育経験から、「教具選択の順序は、第一は実物。第二は実物や実地を示し難い場合の標本・模型。第三は絵図。第四は図面であり、これは最高尚の教具であるが、初級児童に実況を想像させるには抽象的で最も劣悪な教具である。理科では動植物標本、物理・化学では器材や標本の実物がある。体育でも人体模型がある。なぜ地理のみ地図という幼年生徒に最も劣悪な教具を使用するのであろうか」と批判し²⁾、自ら多くの地理模型の製作と普及に努力した。その主な実績は、後掲の表3「釜瀬新平略年表」の中に要約して記した。釜瀬は地図・地形模型を総て「地理模型」と表現しているので、本稿では以下それに従った。

地理模型の製作にあたっては、外国製のものとは重くて損傷しやすい石膏製であることから、児童が玩具のように使用できる軽量にして堅固な練紙を考案している³⁾。それでも試行錯誤を重ね、経済的窮乏に耐え、その執念の延長線上に「大日本帝国交通地理模型」を大阪商業会議所の委託で製作し、日露戦争の最中に博多駅から門司駅へ、門司港から神戸港を経てサンフランシスコへ、そして大陸横断鉄道経由でセントルイス万博会場へ輸送した。1903年(明治36)9月1日の福岡日日新聞に⁴⁾、「我邦の出品計画中にて最も価値あるものなるべし」と期待された縮尺10万分ノ1という巨大なこの地理模型の具体的な内容や出展意図、製作者釜瀬新平の地理教育理念など、学界では未発表のようであることから、



図1 米国聖路易世界大博覧会出展「大日本帝国交通地理模型」落成式
前から2列の向かって左から8人目が製作責任者の釜瀬新平

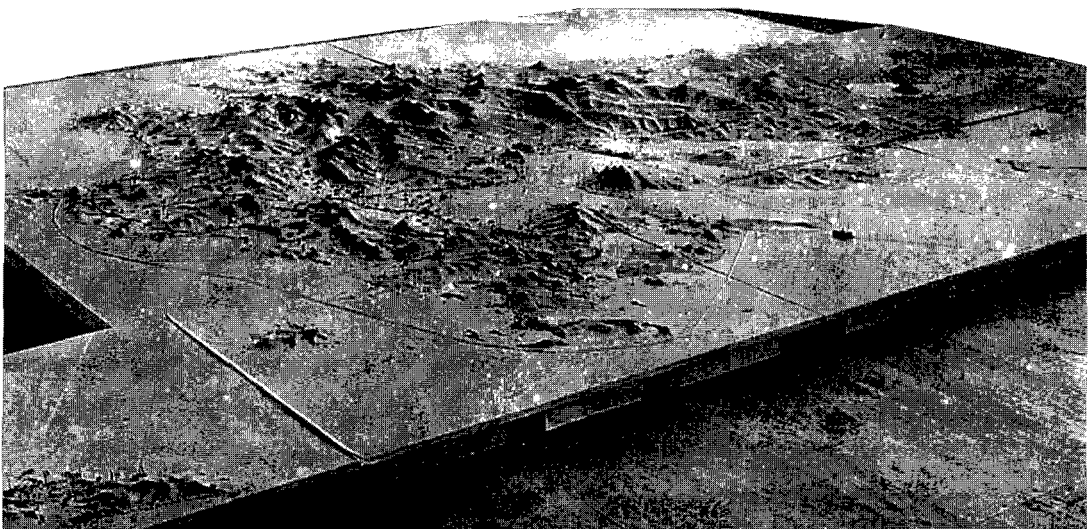


図2 「大日本帝国交通地理模型」(10万分ノ1)の九州
1904年(明治37)1月11日撮影

明らかにしておく意義があると考えた⁵⁾。ただ残念なことに、万博出展の地理模型は現物が残っておらず⁶⁾、わずかに完成記念写真、九州・琉球・千島の模型写真、模型素材の一部(図1～3)と製作記録などが、福岡市・九州女子高等学校(明治39年、創立者釜瀬新平)歴史記念館に保存されているのみである⁷⁾。それらと国会図書館の万国博覧会関係文献⁸⁾、特に公式報告書である農商務省編『聖路易万国博覧会本邦参同事業報告第1編』1905年(明治38、以下『万博報告書』と略記)、および当時の「福岡日日新聞」、「九州日報」⁹⁾などの記事を参考に検討した。なお本稿に掲載した写真・資料の所蔵を省略しているものは、総て九州女子高等学校歴史記念館に保存されている。資料の旧漢字は原則として常用漢字に改めた。

II. セントルイス万国博覧会開催の背景と目的

第1回万国博覧会(以下、万博と略称)は、大英帝国の黄金期を実現したヴィクトリア女王時代(在位1837～1901)の1851年(嘉永4)にロンドンのハイドパークで開催された(正式名称はThe Great Exhibition of the Works of Industry of All Nation)。この万国産業成果の大博覧会が、イギリスの国威顕揚のみならず、参加国にとっても宣伝の場となり、5月1日～10月11日の期間中に600万人余の入場者で黒字決算となったこともあって、定期的ではないが、以後は1904年のセントルイス万博を含む53年間で、イギリス(植民地を含む)6回、フランス5回、アメリカ合衆国5回、オーストリア＝ハンガリー、イスパニア各1回の合計18回、当時の産業革命推進国が頻繁に開催している。

1904年4月30日から12月1日まで開かれたセントルイス万博に限ってみると、万博史上最多の44か国が参加し、会場面積514万平方メートルは、1893年シカゴ万博の2倍、1900年パリ万博の4倍にあたり、会場を一周し、

観客を輸送する鉄道の総延長は21kmに及んで、場内を走る乗合電気自動車も出現した。しかしこの広大さは観客に不評で、入場者総数約2000万人はシカゴ万博をやや下回り、シカゴ万博の総経費541万ドル余に対して1065万ドル余に倍増したため赤字決算となった¹⁰⁾。

『万博報告書』によれば、セントルイス万博開催の直接的な契機は、1803年に第3代大統領トーマス・ジェファーソン政権のとき、フランス植民地であったミシシッピー川右岸からロッキー山地の間を占める広大なルイジアナ地方を、1500万ドルで買収併合した100周年記念の万博であった。この1世紀間でプレーリーの開拓が進み、併合時のルイジアナ地方の人口わずか10万人から、万博開催当時1500万人に増加した。また1900年の米國小麦生産額の50%余、とうもろこしは48%、その他綿花・じゃがいもなどを合わせると、全米農産総額の38%(7億5500万ドル)を生産するほどになっていた。この穀倉地帯の水上交通幹線であるミシシッピー川に臨む中心都市のセントルイスは人口75万人で、ニューヨーク・シカゴ・フィラデルフィアに次ぐ米国第4位の大都市に発展していた。ここで開催することによって、更なる産業・文化の大発展に寄与することを期待された万博であった。

万博会場のパヴィリオンは次の12部門に分けられた。教育館及び経済館、美術館、心芸館、工芸館、電気館、通運館、農業館、園芸館、林業漁業及び狩猟館、採鉱及び冶金館、彫刻館である。「大日本帝国交通地理模型」は通運館の日本展示場に出展され、外国人に対する日本観光旅行の誘致を狙ったことが公式の目的であった。しかしそれと共に、万博報告書に記されていないが、当時の国際情勢を考えると、日露戦争中の日本がこの万博を利用して、世界に存在をアピールしようとする意図のあったことは十分に考えられる。たとえば激戦を展開していた満州の模型を万博

表1 セントルイス万国博覧会の陳列配当面積
(5,000平方^{フィート}以上の国)

国名	配当面積	国名	配当面積
1 ドイツ	321,884	13 ロシア	15,976
2 フランス	296,357	14 スウェーデン	13,566
3 イギリス	200,601	15 ポルトガル	10,971
4 日本	133,135	16 ベルギー	10,286
5 イタリア	81,421	17 ブルガリア	10,030
6 メキシコ	70,993	18 ハンガリー	9,349
7 カナダ	37,604	19 キューバ	9,185
8 オーストリア	33,604	20 エジプト	6,980
9 ブラジル	32,691	21 デンマーク	6,600
10 支那	25,724	22 セイロン	5,755
11 アルゼンチン	18,381	23 プエルトリコ	5,185
12 オランダ	17,430		

(注) アメリカ合衆国の数値は示されていないが、特別に広かったと推察される。
(聖路易万国博覧会本邦参同事業報告第1編による)

会場で急遽追加している。また当時、日本の船舶は軍事関係の輸送で飽和状態にもかかわらず、万博関係の輸送は別格扱いされた。1904年(明治37)2月16日、九州日報の「地理模型発送」の記事によれば、「時節柄、軍需品以外の輸送殆ど杜絶せるの今日なるにも係らず、内国通運会社は大勉強を以て九鉄及び汽船と特約し、該品輸送に遺憾なき取計をなせり」と報道している。

国際状況もまた日英同盟のもとでロシアと戦う日本に対して、米国政府や民心の好意が反映されたようである。参加諸国の12パヴィリオン総陳列配当面積が削減されたなかで、通運館内の日本配当面積は当初90余坪であったが、具体的に面積増加を要請したところ、直ちに希望を入れて館内の好位置に420坪余を承認された。ロシアはおそらく国内事情が主因と思われるが、12パヴィリオン内の陳列配当総面積は日本の8分の1に過ぎなかった(表1)。

Ⅲ. 「大日本帝国交通地理模型」の出展意図とその製作

1. 「大日本帝国交通地理模型」の出展意図

第1回パリ万博以来、最も関心を集めたのは当時の先進工業国が、最新技術による工業製品を競って展示したことであった。したがって、日本のように工業の後発国は、工業製品では到底競争できなかったのも、欧米人から見れば、エキゾチックな日本の伝統文化である美術工芸品の類であれば関心を寄せられ、陶磁器などは欧米の製品があったとしても十分に競合できるものとして出展に力を注いだ。

しかしセントルイス万博に臨む日本の方針は、従来の展示物の範疇から飛躍するものであった。長文になるがそのことを述べた『万博報告書』(農商務省)の一部を引用したい(常用漢字に改め、下線は筆者)。

斬新ナル考案ニ依リ雄大壯麗ニシテ、而モ能ク詳細ニ本邦及ビ近海隣境交通事業ノ発達ヲ示シ、兼テ我が文化ノ真相ヲ紹介シ、外人ヲシテ来遊ノ念ヲ起サシメ、頼リテ以テ彼我ノ交通往來ヲ促進センコトヲ期シタルモノニシテ大阪商業会議所ハ率先之ヲ主唱シ、日本郵船会社(以下会社省略)・東洋汽船・大阪商船・山陽鉄道・九州鉄道・北海道炭礦鉄道・南海鉄道・及ビ阪鶴鉄道ノ賛成ヲ得テ之ヲ發起シ、大阪商業会議所之ガ総代トナリ、農商務省、通信省及ビ臨時博覧会事務局、鉄道作業局等ニ交渉シテ其ノ賛助ヲ受ケ、広ク全国ノ通運事業ニ従事スル会社及ビ個人ヲ勧誘シテ、其ノ賛助ヲ得、博覧会出品トシテハ未ダ曾テ見ザル壯大多趣味ノ大出品ヲ為スコトヲ得タリ。
合同出品ノ考案ハ発起者タル諸会社ノ依頼ニ依リ、大阪商業会議所之ヲ選定立案シ、博覧会事務局ニモ協議ヲ遂ゲテ大規模ナル三大出品ヲ為スコトニ決定シ、實際ノ必要ニ依リテ陳列区域ノ四周ニ外廊ヲ建設スルコトトシ、各専門家ニ託シテ之ガ製作ニ当ラシメタリ、其ノ出品物及ビ製作者左ノ如シ。

「練紙製大日本帝国、韓国全部及ビ北清・満州一部ノ地理模型」製作者、
福岡市釜瀬新平

「刺繡大日本帝国世界航路図額」製作者、
大阪市菅原直之助

「大日本帝国名勝彩色写真額」製作者、
東京市小川一真

「外廊及び装飾全部」製作者、京都市川
島甚兵衛

以上の報告書から、通運館に展示の3点を総合すると、次のような意図で製作されたものと筆者は考える。①体裁は斬新にして雄大壮麗、且つ内容は詳細なること。これは万博出品物としては未曾有の規模をもつものである。②具体的内容は日本の交通発達の状況と日本文化の真相を紹介するもの。③作品のねらいは外国人の日本観光旅行の誘致であり、その連繫効果で日本全国の通運業発達を促すこと。④経費は日本の通運事業者に助成を仰ぎ、出品物の選定や製作者の最終決定は大阪商業会議所が博覧会事務局と協議して立案する、というものであった。

表2 セントルイス万国博覧会・通運館出品事業の収支

		(明治38年5月調)	
収入の部	(円)	支出の部	(円、銭)
臨時博覧会事務局費	5,000	◎地理模型費	16,575.29
鉄道作業局	7,000	刺繡航路額費	3,587.10
大阪商業会議所	1,000	彩色写真額費	9,189.71
日本郵船株式会社	6,500	水彩画額費	955.00
東洋汽船株式会社	3,500	外廊及び装飾費	8,390.31
日本鉄道株式会社	3,000	運賃及び保険料	4,973.75
山陽鉄道株式会社	3,000	旅費	2,529.10
九州鉄道株式会社	3,000	派出員手当(委員及び技工)	12,600.00
大阪商船株式会社	2,500	海外諸工費	2,994.56
北海道炭礦鉄道株式会社	1,000	同運搬費蔵敷費	548.18
南海鉄道株式会社	1,000	内外接待費	866.17
阪鶴鉄道株式会社	500	内外通信費	342.76
その他の会社及び個人	5,110	内外雑費	828.84
		海外雇員慰勞金	260.00
		報告費其の他	1,013.22
合計金額	42,110.00	合計金額	65,653.99

(聖路易万国博覧会本邦参同事業報告第1編による)

その具体的な通運業者からの助成と、出品された3件の製作費などの支出額は表2に示した。支出額では地理模型は突出して多額であり、通運館内の展示のみならず、「まえがき」にも記したように、セントルイス万博における「我邦の出品計画中に最も価値あるものなるべし」と福岡日日新聞が報じたことと符合する。

製作者釜瀬新平もまたこの地理模型の目的を設計書作成の段階で、次のように記している¹¹⁾。

日本帝国ガ太平洋上主要ノ位置ヲ占メ、地勢山川ノ優秀ナル事ハ世界ニ其ノ比ヲ見ザルモ、大陸ニ生活セル欧米人士ノ腦裏ニハ地図又ハ文章モテ紹介スルモ、到底其ノ真相ノ一部ヲモ解釈セシムル能ハザルベシ。由テ之ヲ模型ニテ示シ、帝国ノ地勢、世界公園楽土タルヲ直観セシメ、而シテ冠絶ノ風土景勝ヲ有スル帝国ガ、其ノ内容ニ於テ物産豊富、都邑ノ発達、特ニ内外交通機関ガ如何ニ進歩発達セルカヲ示シ、欧米人ヲシテ帝国ノ進化ヲ知ラシメ、漫遊ノ意思ヲ勃起セシムルニ在リ。之ノ目的ヲ達センガため、左ノ二個ノ考案ヲナス。

一、日本全土ノ模型(東西対岸地ノ模型ヲ付ス)

二、世界ニ於ケル日本ノ交通発達図

以上のことから、釜瀬新平は地理教育の研究で得た知識によって、大陸を生活舞台とした欧米人には殆ど認識されていない日本の自然美と多彩な物産、そして近代交通の発達の有様を、文章や地図では到底表現できないので、地理模型を考案し、海外からの観光旅行を喚起させるため、と述べている。ただし、計画書にある「二、世界ニ於ケル日本ノ交通発達図」については、大阪市菅原直之助による縦17尺(5.15m)、横28尺(8.48m)の「刺繡大日本帝国世界航路図額」が指定されたので、自らは10万分ノ1「大日本帝国交通地理

模型」一約460(完成時384)ブロックで構成、千島・琉球を分割し、北海道～九州まで長さ22間(39.8m)一の製作に専念することとなる。

2. 地理教育者・釜瀬新平の「大日本帝国交通地理模型」受注経緯

釜瀬新平の経歴については、表3に要約した。1887年(明治20)に福岡県師範学校を卒業し、郷土(福岡県宗像郡)の小学校訓導・校長を経て、福岡県師範学校訓導に在職中、一貫して地理教育に地理模型の必要性を説き実行した。そして、模型を広く普及させるために和紙を原料とした(釜瀬式練紙)軽量にして堅牢な地理模型を量産する必要があると考え、1900年頃からすでに頒布活動をはじめている。しかしこの理想実現は公職の片手間では無理と考え、1903年(明治36)2月に退職し、師範学校の近くに釜瀬地理模型研究所を設立、同時に私立豫修館(福岡県師範学校への進学予備校)を開校し(教場は福岡市唐人町、寄宿舎は荒戸町)、その収入で模型の研究・製作費や家族の生活費に充てることにした。

この時期、釜瀬新平の目にとまったのが、福岡日日新聞1903年(明治36)9月1日の論説、来年5月から開催される聖路易博覧会についての記事であった。すなわち、日本政府・議会は80万円の経費支出に協賛し、既に事務局も設けられたこと。そして、釜瀬の心を動かしたのは、同日の雑報記事(資料1)である。それは万博会場の通運館に日本全国の地形および運輸交通の状態、河川・港湾・都市・名所・古蹟などの詳細な「木彫の模型」を作り、一目の下に日本の状態を認識できる仕組みとし、その規模は400坪の建物に見合う巨大なもので、これを分割して輸送する。模型周囲の障壁には写真または統計などを展示する。これらの経費は凡そ8万～10万円を要し、セントルイス万博の日本出品物では最も価値あるもの、と記してあった。

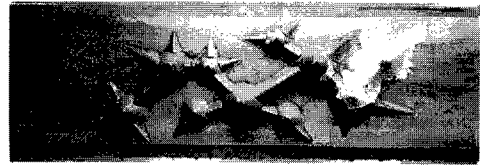


図3 生子板による地形の骨格試作



図4-1 福岡県地理模型



図4-2 九州地理模型

明治三十六年九月一日 福岡日日新聞

論説

聖路易博覧會

米國政府が、ルイジアナ買収百年紀念の爲めに、明年五月を以て、聖路易に於て開催する万国博覧會は、夙に我政府の賛同する所となり、議會は之が爲めに八十万円の經費支出に協賛を与え、之が機關たる事務局既に成り、正副總裁以下亦既に夫々任命を見、出品準備は着々として進行を告げつつあるもの如し。此際^に方^に、吾人一言を費やすもの、亦必らずしも無用の業に非ざるべき乎。

雜報

(略)

▲日本通運館 農商務大臣、臨時博覧會副總裁及び事務官長よりの依託に依り、大阪商業會議所にて設計しつゝある聖路易博覧會場に建設すべき日本通運館の設計を聞くに、日本全体の地形及び運輸交通の状況より、河川港湾都市より、名所古蹟等に

至るまで、詳細に木彫の模型を作り、一日の下に我邦の状態を了知せしむるの仕組にて、其模型は四百坪の建物に適應するだけの大きさとなし、之を小分箱詰めとなして彼地に送り、到着の上は其箱を土台にして其上に組立て、周囲の障壁には写真又は統計表等を陳列するの計画にして、經費は凡そ八万円乃至十万円を要すべし。其經費は日本郵船、大阪商船、東洋汽船、鐵道作業局、日本、山陽、九州、関西、其他の各鐵道及び運輸業者に交渉して負担せしむることとし、希望に依り官庁出品其他各私設会社の出品を為さしむるの計画にて、同博覧會に對する我邦の出品計畫中にて最も価値あるものなるべしと。

資料1 福岡日日新聞 明治36年9月1日論説・雜報記事 (国立国会図書館マイクロフィルムによる)

資料2 明治36年9月5日「大阪商業會議所ニ模型製作方紹介ヲ願書」河島淳知事ニ出願。福岡市荒戸町203番地 地理模型研究所長 釜瀬新平。

資料3 明治23年より明治34年に至る「地理模型製作方發明の沿革」(明治33年10月、皇太子の九州行啓に際し、九州地理模型を献上し御前説明したことが記されている)

釜瀬は連日熟考し、その構想を携えて9月5日に福岡県知事川島淳に大阪商業会議所への紹介を願い出ている(資料2)。この願書によれば、「私は十余年来、実地に地勢の探検を重ねて調査研究し、多少の理想を抱いているので、そのことを開陳し、御参考に供したので、履歴書を添えて願い出た」という趣旨であった。

当時すでに釜瀬新平の地理模型製作は著名であった。1900年(明治33)に皇太子(後の大正天皇)の九州行啓に際して、九州地理模型(35万分ノ1)を献上し御前説明を行った。その席で皇太子から「かかる教具を日常課業に用い居るや」との御尋ねがあった(資料3)。そのことが縁となったのであろうか、翌年に福岡県視学官の発議で、県下各学校に釜瀬式練紙の「福岡県地理模型」(15万分ノ1)が必備教具となったほどである(図4)¹²⁾。

大阪商業会議所への紹介状は福岡県知事のほか博多商業会議所からも得て、早速大阪へ向かい会議所書記長・浜田健次郎に面会し、自作模型の一部を披露して、万博出品計画案を開陳した。ここで書記長の即決賛同を得ると、直ちに上京し、9日に農商務省内の博覧会事務局を訪ねた。ここでも関係者の同意を得て、「大日本帝国交通地理模型」の製作委託を受けることが決定した。そこで釜瀬は製作に必要な地図類を東京で求め、福岡への帰途再び大阪商業会議所に立ち寄り、当初提示した製作予算4,500円は余りにも少額であることを示唆され、これを大幅に上回る18,000円を提示している。その増額理由は、外国出品物として恥ずかしくない優良な模型とする必要上、詳細な内容を検討した結果としているが、表面には出していないものの、独自の練紙による製作利益を豫修館の債務償還に充てる必要のあったことを後日述懐している¹³⁾。『万博報告書』によれば、実際の支出は16,575円29銭であった(表2)。

9月15日に福岡へ帰ると、豫修館の敷地に

建てられた作業場で、19日から早速製図に着手するという、迅速で手際よい実行力のある釜瀬の性格が発揮され、翌年2月の納期までに完成させることになる。

3. 地理模型製作上の難題とその対策

監督：福岡県知事河島淳、製作責任者：釜瀬新平のもとで、1904年4月30日開幕のセントルイス万博に出展するため、1903年9月19日から翌年2月7日まで、150日足らずの間、昼夜兼業(夜は50個のランプ使用)で70余名の職人を動員し(延約1万人)、縮尺10万分ノ1という未曾有の大規模な「大日本帝国交通地理模型」が福岡市の一隅で完成する。しかし、製作上数多の試行錯誤があり、その幾つかを次に記す¹⁴⁾。

第一に模型の基本図としたのは陸地測量部輯成20万分ノ1図であったから、これを10万分ノ1に拡大製図する作業は、予想以上に精密な技能と多大な時間を要し、しかも同一図を三部作成(試作用・台板張付用・控用)したため、製図だけの完了に約3か月を要した。

第二に最も多数の職人を必要としたのは、地理模型を築く台板である。384枚(当初計画は460枚)で構成する厚さ1寸の台板は、分解と組立が容易で凹凸を生じないこと、そして日本より乾燥の強い現地で収縮したり亀裂が生じたりしないよう、十分に乾燥した良質の杉材を選ぶ必要があった。分割した台板の各々に美濃紙を三重に貼り、さらに製図された10万分ノ1地図を貼る。海面部は水色に印刷した洋紙に(最終的には青色の甲斐絹を使用)港湾・航路・海底電線などを記入したものを貼り付ける作業であった。

第三に、台板の地図上に地形の起伏を水平の3倍とする作業も手間取った。特に当初は総て練紙(和紙を水に浸し、石上で叩き解いて水を絞り、布海苔を加えて練り上げたもの)を使用する予定であったが、自然乾燥で

表3 釜瀬新平略年表

(★印は地理模型関係)

	1868 (明治元) 12月/20日		福岡県宗像郡野坂村釜瀬家の長男として生まれる。
	'74 (M.7)	就学	宗像郡朝町小学校入学。M13, 月俸25銭の授業生となる。
	'82 (M.15) 11/		宗像中学校入学, 18年2月廃校退学。
	'86 (M.19) 10/		宗像郡田島小学校訓導 (2月初等小学校教員免許状受領) 月俸4円。
	'87 (M.20) 12/		福岡県尋常師範学校入学, 25年3月卒業。
	'90 (M.23) 4/		★第3回内国勸業博覧会見物に上京。湯島の教育博物館でドイツ製自然地理模型・六大州地理模型, 上野の皇室博物館でロシア皇帝より皇室へ寄贈の地球儀などを見て感動, 日本の模型研究を志す。
	'92 (M.25) 4/		宗像郡津屋崎尋常小学校訓導, 月俸13円。
日清戦争	'94 (M.27)	小学校・高等小学校教員	★職員会議にかけて運動場の片隅に粘土製の20万分ノ1日本地理模型作り (北海道~九州まで長さ6間), 海は深さ5寸の水面とし魚を泳がす。山地は山苔, 都邑は玩具屋形, 鉄道は銅線, 港に小舟を浮べ, 水面は手足洗場とした。校長兼任。 [10/27 志賀重昂『日本風景論』政教社]
	'95 (M.28)		津屋崎尋常小学校に2か年の補習科新設。安部トキ子と結婚 (1月)。
'96 (M.29) 4/	★東郷高等小学校訓導一模型の教育効果を想起し軽便化を思考。 ★宮崎宮絵馬堂の木製白馬に人々が吹き付けた紙が固定することに注目 (夏休)。80万分ノ1日本帝国練紙模型試作。		
'97 (M.30) 4/	津屋崎高等小学校訓導。		
'98 (M.31)	★長崎共進会に日本帝国練紙模型出品。直径1尺8寸の地球儀製作。夏休に上京して鋳型研究, 40日間72円50銭の経費に苦勞, 家族・友人の協力。		
'99 (M.32) 2/	福岡県師範学校訓導, 月俸20円。		
	1900 (M.33) 10/29	福岡県師範学校教員	★夏休に模型を携え上京。志賀重昂, 矢津昌永, 野口保興先生の賛同と助言を得る。 ★皇太子嘉仁親王殿下九州行啓に際し, 「九州地理模型献上」 (35万分ノ1)。九州の地理を御前説明 (師範生徒50人手伝, 10/13~20不眠不休で製作)。
'01 (M.34)	★試行錯誤の末, 石膏の鋳型に練紙を入れて量産の念願叶う。 ★県視学官の發議で県下各学校に「福岡県地理模型」 (15万分ノ1) 必備品となる (図4-1)。岐阜・香川・熊本の共進会にも出品。 ★陸地のみならず海面に水産物の絵を入れた「九州地理模型」製作 (図4-2)。九州各県実地巡察 (8月)。 33年~35年の間, 夏休・冬休を利用し, 近畿・東海・東北地方の地形観察と実地踏査。富士登山。『小学校地理教授私見』 (11月) 出版。		
'02 (M.35) 8/	福岡県師範学校訓導辞任 (公職と模型製作の両立困難)。4/10「私立豫修館」開校校長就任 (教師に教えを乞わず自学自習の訓話)。4/25「福岡県地理のはなし」地理模型研究所。		
'03 (M.36) 2/25	★聖路易万国博覧会「大日本帝国交通地理模型」製作を大阪商業会議所より委嘱され大阪訪問。 上京し農商務省博覧会事務局の協賛・製作委託を受く。必要地図等購入し, 大阪へ立寄り製作予算18,000円を提示, 9/15帰福。 製作着工, 工事監督福岡県知事, 職工70余人, 昼夜兼業体制。自宅を「地理模型研究所」とする。		
	9/5	私立豫修館	
	9/9		
	9/19		
日露戦争	'04 (M.37) 2/7	校長	★模型完成落成式 [千島東端~台湾南端約47m, 犬吠埼~朝鮮北部約14.5m, 高さは水平の3倍, 384ブロックに分割]。(図1, 2) 渡米, 滞在中に万国地学協会員に「日本地形論」講演。 ワシントン某女学校訪問。一女子教育の普及に感動一
	3/12~7/		★聖路易万国博覧会開催。(豫修館生徒数400余名)
	4/30~12/		

堅牢になるまで3~4週間を要することが分かった。この間に僅かな力で変形する恐れもあったり, 何よりも完成期限に間に合わない。そこで山地の概形は総て生子板 (トタン

板)を漏斗状に作り, 板面に釘付けし(図3), その上を練紙で覆った。それでも乾燥に予想以上の日数を要するので, 炭火を用いた乾燥室を設け, ようやく一週間以内で乾燥させ,

(続き)

第一次世界大戦	'06 (M.39) 4 /	私立九州高等女学校校長	豫修館女子部 (200 名) を修業 4 年の「私立九州女学校」に改め校長に就任 (米 国式自由形教育に貝原益軒の儒学と「民生日用の学」教育を折衷)。
	'07 (M.40) 3 / 23		「私立九州高等女学校」に改め、豫修館を移転し経営を井上氏に譲る。
	'09 (M.42) 7 / ~ 8 /		朝鮮・台湾の地形観察。
	1910 (M.43) 2 /		★朝鮮・台湾両總督府より依頼の両地域模型完成：日英博覧会展示用。 3 / ~ 6 / 渡欧。ケンブリッジ大学、各階級学校、盲学校等訪問。
	'11 (M.44)		★京都博覧会出品用の朝鮮模型地図製作。
	1912 (明治 45, 大正元)		★拓殖博覧会用の朝鮮模型地図製作。
	'13 (T.2) 9 /		★「大日本帝国地理模型」(60 万分ノ 1) を学習院へ寄贈。
	'14 (T.3)		★ 1915 年サンフランシスコ万博展示用の別府温泉・八幡製鉄所模型製作。
	'15 (T.4) 9 /		★朝鮮合併 5 周年共進会用模型 38 種完成。1 / ~ 5 / 渡朝。 この頃より複数信仰 (英彦山で修行)。 模型製作を終結し、以後は私学発展に尽力。
	'17 (T.6)		県知事へ県費助成の請願書提出 (私立筑紫高女の水月哲雄校長と連名)。
'19 (T.8)	九州各県私立中学校協会を福岡市で開き、国庫補助の請願運動を始め 11 月に上京。 長女直枝、日本女子大学卒業し九州高女教員となる。		
'20 (T.9)	全国私立中学校教員連合の基礎を作り中心幹部となり、2 月、5 月上京。		
'21 (T.10)	第 44 帝国議会で「私学補助建議案」衆議院通過。		
'23 (T.12)	財団理事長・校長	釜瀬家名義の校舎地を財団に寄附。理事長兼校長に就任。長男富士雄、東京帝国 大学進学。	
'24 (T.13) 7		財団法人私立中学校協会を組織、幹部役員に就任 (理事長は日本大学中学校長)。 [25 (T.14) 2 / 11 日本地理学会創立]	
'26 (大正 15, 昭和元)		九州家政専攻学校を置く (修業年 1 年)。長男富士雄、松本高等学校教授任官。	
'28 (S.3)		教育功績により藍綬褒賞受賞 (61 歳)。	
'29 (S.4) 4 /		私学協会国庫補助案議会議会通過公布、多年の懸案成就につき協会役員辞職。	
'30 (S.5) 2 / 20		逝去、63 歳。法名 無量院教善誠烈新光居士。	

作表資料 (1 ~ 5 は九州女子高等学校所蔵)

1. 釜瀬新平履歴書 (大正 2 年 10 月 3 日自筆)
2. 釜瀬新平「地理模型製作方発明の沿革」(明治 23 年より明治 34 年に至る自筆)
3. 釜瀬新平『小学校地理教授私見』地理模型研究所, 明治 35 年 11 月 3 日
4. 『同窓のおとづれ』開校 15 周年記念号, 九州高等女学校, 大正 10 年
5. 河邊光次郎編『偉材釜瀬新平』財団法人九州高等女学校, 昭和 8 年 5 月 10 日
6. 田中耕三『地名と地図の地理教育—その指導の歩みと課題—』古今書院, 平成 8 年
7. 『日本地理学会 75 年史特集号』地理学評論 Vol.73 (Ser.A), No.4, April 2000

堅牢な模型とした。

第四は、陸地の土地利用や山地の彩色について、同一色でも斑を生じ自然美の感覚を損なうものとなった。そこで東京美術学校の和田英作教授に指導を仰ぎ、この問題を解決した。また当初計画は経費のこともあって、交通機関や都市・名所などは記号で表現する予定であったが、釜瀬は精巧で美術的なミニチュアの模型表現に執着した。たとえば港や航路に当該会社の記号をつけた代表的汽船を配置し、鉄道線路には沿線の特産物を積んだ列車を置いた。これらのミニチュアは、高額

の経費を払って専門の博多人形師に発注している¹⁵⁾。

第五は模型の範囲について、当初は日本周辺は海洋部を含めて縮尺を小さくし、中国大陸は香港付近以北の沿岸部と韓国全域、ロシアは樺太以南の沿岸部、そして太平洋を隔てた北米のサンフランシスコからバンクーバー付近まで、茶褐色の濃淡で地形の高低を表し、陸地は平面図とし、主な港のみ建造物のミニ屋形を配置する予定であった。しかし、展示会場の都合で北米は省略し、代って急遽満州の大部分を万博会場で作成付加したの

は、日露戦争の主戦場が満州であった情勢を反映したものと考えられる。

4. 地理模型製作の組織・内容・材料・輸送などの実態

(1) 組織と施設・工期

[組織と人員]

監督：福岡県知事 河島淳

製作責任者：地理模型研究所長 釜瀬新平

①地図調査部2名 ②地図複写部6名 ③木工部27名 ④練紙製作部14名 ⑤地勢築造部15名 ⑥甲斐絹貼付部8名 ⑦装飾部15名 ⑧事務部5名 ⑨雑給部5名 ⑩和文英訳部2名。

以上の職工78名、但し複数部の兼務者を含む。延人数約1万人。

[作業施設・工期]

作業場：私立豫修館運動場(500坪)に2棟、更に後期は豫修館教場、寄宿舎の一部借用。

工期：明治36年9月19日～37年2月7日。

(2) 模型の規模と構造

[範囲と縮尺]

①日本全土：10万分ノ1、長さ=千島北端から台湾南端まで。但し千島・琉球・台湾は分離し、総長22間(39.8m)に収める。幅=犬吠埼より能登半島まで2間(3.6m)。

②朝鮮半島・中国大陸東岸・満州の主部：50万分ノ1。

[模型台板の分割と組立法]

凡そ460区分(1区分=12平方尺=3.6m²)、各板の接面に堅木の栓、背面は各2個の貫で締める。航路・海底電線は絹糸巻の銅線を張る。

[地形の起伏]

山脈の基礎は漏斗状の生子板を板面に釘付けて、その上を練紙で築く、山の高さは平面の3倍、富士山は4寸(12.1cm)となる。

[陸面の彩色]

東京美術学校和田英作教授の指導、ワニスを塗布して練紙乾燥後、白粉2回塗布し、その上に彩色。山地(緑)、火山頂・焼野(濃

褐)、1万尺(約3,000m)以上(白)、原野・耕地(淡黄)、川(藍)。

(3) 模型の内容と装飾品：博多人形師によるもの

[陸上交通関係]

鉄道はレールの模型。汽車・列車は長さ2～3寸(6～9cm)にして、レールに乗せ、沿線各地の主産物または旅行者などを搭載。九州鉄道(汽車数4箇所、搭載物産：米・石炭・有田焼・花筵)。官設肥薩鉄道(1、煙草・金)。讃岐鉄道(1、金毘羅参詣者)。伊豫鉄道(1、道後温泉浴客)。山陽鉄道(3、米・花筵・麦稈真田)。播但鉄道(1、銀)。南海鉄道(1、紀州ネル)。奈良鉄道(1、大和巡り遊覧者)。阪鶴鉄道(1、有馬浴客者)。関西鉄道(1、遊覧者)。東海道官線(6、茶・漆器・瀬戸焼・西陣織・旅客)。北陸鉄道官線(2、羽二重・九谷焼)。官設中央線(1、甲斐絹)。官設直江津線(3、生糸・石油)。日本鉄道(6、生糸・織物・銅・米・馬・硫黄)。官設奥羽線(2、織物・銅・米)。北越鉄道(1、米)。岩越鉄道(2、米・織物)。台湾鉄道(3、砂糖・茶・樟腦)。北海道炭砒鉄道(3、石炭・昆布・鮭)。同官設線(3、硫黄・鋤犁)。

[都市・村落関係¹⁶⁾]

都邑は町制施行以上のもの及び人口1万以上の村落を表す。都市の模型約200個、東京(宮城)、大阪(無数の煙突)、京都(大極殿)、外人居留地のある大貿易港(洋館屋形)、県庁所在地(3階高樓)、人口10万以上(3階日本屋形)、5万以上(2階日本屋形)、1万以上(1階日本屋形)。

[海上交通関係]

貿易港に1艘の商船、軍港に軍艦1艘、計凡そ40艘。汽船帆船を航路上に凡そ60艘、各会社の主要な船を模し、会社の記号を付す。燈台凡そ80個は木製彩色。

(4) 模型の材料と数量

[地図類]

①陸地測量部輯製20万分ノ1(全国) ②2

万分ノ1迅速測図 ③農商務省地質調査局地形及地質図 ④水路部実測海図 ⑤富山房編日本全図 ⑥実地踏査地図。

上記①を拡大した10万分ノ1図を4部作製(『万博報告書』では3部となっている)、この製図用西洋紙2,500枚、美濃紙広形ローサ引1,720枚。

[地勢模型用材]

- ①台板用杉材、1寸厚凡そ150坪(約500m²)
- ②台板裏用松材、2寸5分角6000尺(1,818m)
- ③鉄棒1,300本 ④生子板10枚 ⑤練紙用半紙30貫(112.5kg) ⑥古新聞30貫。

[その他]

水色甲斐絹90疋(68m)。裏打用紙21,200枚。電柱用針金11,700本(高さ1寸余)。電線用赤絹レース糸約3000尺。鉄道用黒褐色練糸300匁(1.1kg)。各種絵具。

(5) 模型の完成と輸送

1904年(明治37)2月13日、福岡県知事他、関係者一同列席のもと、豫修館で模型完成の落成式を挙行。釜瀬新平の家族も入った72名の記念写真が残されている(図1)。その翌日、

模型受取のために大阪商業会議所会頭・土居通夫、同書記長・濱田健次郎、工学博士・栗塚又郎(鉄道技術者)が来福、15日に豫修館に於て模型の授受を無事終え、それを待って直ちに発送荷造に取りかかるという慌しい状況であった。したがって、当初は東京と大阪で一般公開の予定であったが、日数の余裕がなくなり、大阪公会堂で一部を省略し展示するに留まった。

荷造は模型を50箱に分解収納、陳列用材90くくり括、模型用材料品10箱、総重量56.5t、以上を荷車75台にて博多駅——門司駅・港——神戸港(3月1日出航)——サンフランシスコ——(大陸横断鉄道:1869年開通)——セントルイスまで輸送された。当時パナマ運河が着工され、1914年に開通する以前のことである。

IV. セントルイスにおける釜瀬新平の「日本地形論」講演と地理模型の評価

1. 「大日本帝国交通地理模型」と関連した日本地形論

万博会場の模型展示指揮監督のため、釜瀬新平は1904年3月21日に横浜港から出航し、7月18日に帰国するまで3か月間滞在した。この間にセントルイスで万国地学協会員及び日本人会員集会の席で(月日会場不詳)、「日本地形論」を講演し、万博出展の地理模型について観覧を呼びかけている。英文原稿は現存しないようであるが、和文の主要部分が記録されているので¹⁷⁾、それを参考に述べる。

釜瀬は、日本地形論(On the Geographical Features of Japan)の冒頭において、

欧州の瑞西と亜細亜の日本という対句は、東西両半球に於て山紫水明自然界の美の鐘あつまる所として、遊客の絶えず足を曳かせる事に於て、其の自然界の美の価値が如何に崇高なるやは、世界の人士に認められているが、欧米人の瑞西に於けるが如くに未だ日本に向て、遊客の少きは、たとひそれが位置の遠隔と、紹介の不徹底というが如き理由はあるとしても、日本の山川が甚だ遺憾と感ずる所であろう。私は今日重ねて諸君の前に、日本の地形を自然美の標準として、而して美の標準たる地形の感化によりて成立した日本国、並びに日本人に就き一言せんと欲する次第である。

と述べ、次に富士山を例にその自然美を説き、当時すでに盛夏の頃は幾十万の登山者があり、頂に立って自然に親しむことを無上の誇りとしたこと、世界に火山・名山多しと雖も、富士山に及ぶものはなく、これは4000万人同胞の美的精神と独立心・愛国心に感化を与えている、と論じている。

特に出展の地理模型を意識した部分は、「海岸線に屈曲多く、自然港湾に富める我が

国は、海上交通発達には多大の便益ありしも、山嶽起伏、陸地の傾斜甚しく、水流急激なる陸上の交通を便利ならしむる設備は、欧米大陸人士の到底想像にも及ばぬ困難を含んでいる。さりながら僅か34年間に発達せる鉄道の延長は、狭長なる九州本島、北海道を縦横に貫きて、海上船舶の交通は津々浦々に汽笛を響かせ、東洋諸国はもちろん、欧米の大陸まで、其の連絡を及ぼしている。電信電話の線も蛛網の如くにて其の用を弁じている。今や合衆国聖路易に於て、ルイジアナ買収100年の記念博覧会を開くに際し、我が日本帝国交通機関の発達を度を示し、文明進歩の尺度を表現するには、50年前、米国船が第一発の汽笛を下田港に響かせ、爾来親交を結び友情を尽くされたのに酬ゆる適當の処置であろうと信ずる」と、模型展の意図に触れている。

またこの模型の出品は大阪商業会議所となつてはいるが、農商務省や日本全域の海陸交通・運輸業者の賛同によって実現したものであるから、日本帝国の出品といつても過言ではない。製作責任者の自分は十年来、日本地形の研究を行い、模型製作の経験を認められ選ばれたものである。したがつて、セントルイス博覧会を観覧される際は、特に日本文明の進歩と、美術的な日本の地理模型に注目していただきたい。その上で製作の意図と方法について批判と指導を賜りたい、ということと結びとしている。

2. 「大日本帝国交通地理模型」の評価

万博会場に展示された地理模型の評価に関しては、米国地学協会報告書の編集者から、釜瀬新平に直接送られた意見書があったようで、その意識は次のように記されている¹⁸⁾。

「釜瀬新平君は米国地学協会の書籍館に、卓越せる彼の大日本帝国模型地図の写真を送った。この模型は今セントルイス博覧会の通運館に於て多くの注目を集めつ

つある。模型は長さ凡そ100尺、幅50尺という大きさであり、垂直的に拡大されている。九州より千島まで、台湾より滿州・韓国まで、ある程度まで山海の形を推察するには充分である。ただこの模型は、一人の製作者の地形観念と故郷である福岡において作られている。したがつて、他の或る地方の人が観た場合、誤りのある印象を与える憂はないだろうかという疑問はある。しかし参謀本部の地図に基き、山・谷・平原・内海等の精細な表現を、細心に注意していること。特にこの地図は郵便事業・鉄道・電信・汽船・企業等に於て、大切な各場所につき日本の顕著な発達を、生々とした観念で知らしむるものである。」

凡そ以上のような主旨の評価を得ている。確かに模型の基本となつた輯製20万分ノ1の地形は暈滲式であり、等高線の読図ほど正確な立体復元は困難である。しかし表3にも記したように、明治33~35年にかけて、九州から東北地方まで地形観察や富士登山などを行つており、完成した九州の鳥瞰的模型写真を見る限りでは、傾動山地・阿蘇火山・南九州のシラス台地などの表現から、地形の特徴を概ねよく立体化しているように見える(図2)。

また模型を神戸港から輸送する直前、大阪に於て、一部を省略して展示し、大阪商業会議所から、各鉄道・海運会社に閲覧の案内状を贈り、誤謬があれば修正することにしてゐる。たとえば阪鶴鉄道会社から大阪商業会議所に宛てた次のような文書がある(表題欠)。

「拝啓 陳者聖路易博覧会出品模型地図出来之趣御通牒ニ付、昨日社員ヲシテ拝見為致候処、頗ル精巧ニ出来仕候。戦勝国之出品トシテハ恰好ノ出品ニシテ、全ク貴所御配慮之結果ト深ク感謝仕候。然ルニ爰ニ一寸願出度ハ云々」とあつて、文字が小さく見づらい箇所や、昨年鳥取まで開通した鉄道のないこと

などを指摘して修正を求めている。海運会社からは（社名不詳）寄港地の修正や地名の誤記などの指摘もある。したがって、地理模型の内容は、かなり詳細なクロスチェックがなされたと推察される。

V. あとがき

釜瀬新平は福岡県師範学校訓導の1902年（明治35）に『小学校地理教授私見』を自費出版している。その冒頭に、自分は地理学者ではなく、地理模型研究を以て自認する者で、学を教える力はない。しかし、小学校の地理教授についての目的・指導法・教具選択などについては、諸先生の意見を聞き、同僚と研究し、自身も実験研究の結果、おぼろげながら一つの意見をもっているので、読者の批評を請う、と前置きした上で、1900年（明治33）の夏に東京で開催の教育講習会に出席の折、志賀重昂・野口保興・矢津昌永を訪問し、特に志賀重昂から地理教授法について意見を承ったときのことを次のように記している¹⁹⁾。

志賀先生は、「余は現今日本の地理教授はすべて死したる教授である。活きたる地理教授法は未だ一回も見しことなし。そは現行の小学校地理教科書を一見してすでに分ることである。見よ何山は高さ何尺、川は何里、物産は何々等なり、あれを読んで何たる感覚あるや、それを教師は読書的に教へて居る。地理学教授は易々たる者なりと、すまして居る人が多いが、余は地理教授は決して易き者ではないと考えて居た」と言われた。そこで釜瀬は活きたる教授法とは如何なる事で、如何にすればそれを習得できるや、と質問したところ、「それを君は研究せよ」とはねつけられたが、話を続ける中で、教授上の肝心なことを懇々と語られたという。

釜瀬新平は特に小学校の地理教育に地理模型を必備の教具と考え、これを量産して広く普及させようとした結果、採算を度外視できなくなり、福岡県師範学校退職後は地理教具

製作者としての色彩が濃くなった。しかしセントルイス万博出展で米国に滞在中、ニューヨーク・ワシントン・ボストンなどの学校を視察している。そして米国女性の社会活動の目覚しきは、日本のような男尊女卑観による教育差はなく、女子教育の盛んなことにある、という強い感動を受けて1904年7月に帰国した。

女子教育への熱意は1906年4月に豫修館女子部（200名）を修業4年の私立九州女学校として、自ら校長となり、翌年には豫修館経営を他に譲り、女学校を九州高等女学校に改めた。これが現在の九州女子高等学校の前身であり、同校歴史記念館に釜瀬新平関係の諸記録や、地理模型関係品の一部が保管されている所以である。

1910年（明治43）、ロンドンの日英博覧会に際して、総督府の依頼で朝鮮・台湾の地理模型を製作し渡英した際も、ケンブリッジ大学をはじめ各階級の学校や盲学校を訪問しており、このあたりから釜瀬は更に女子中等教育に力を入れ始める。そして1915年（大正4）の朝鮮併合5周年共進会用の模型38種（朝鮮総督府・朝鮮鉄道局等からの受注）の完成を最後に、模型製作の終結を宣言する。以後は、福岡県、九州、そして全国の私立中等教育の振興に尽力し、1929年に私学協会国庫補助案が帝国議会を通過し公布されたことから、多年の懸案成就ということで、財団法人私立中学校協会役員を退任、その翌年の2月20日、63歳の生涯を閉じた。

以上は釜瀬新平の生涯を略記したが、地方の一教員が、初等地理教育の経験によって、地理模型は児童の興味を喚起し、記憶を容易明確にすることから、その製作と普及に執念を燃やし続け、やがては「大日本帝国交通地理模型」製作の偉業を成し遂げ、更に初等地理教育・女子教育に生涯を捧げた気概と実行力に、筆者は強い感銘を覚えるのである。

（跡見学園女子大学・非常勤講師）

【付記】

本稿は第43回(平成12年度)歴史地理学会大会(2000年5月27日, 島原市)において発表した内容に補足した。発表に当たっては, 九州女子高等学校当局, 歴史記念館・笠顯二館長・教職員各位。釜瀬新平氏の実像を語って下さった次女の釜瀬静枝(1907年生), 孫の釜瀬九州男(元修猷館高校教諭)・井上洋子(精華女子短期大学教授)の諸氏。地図模型や明治期の地理教育などについて文献と助言をいただいた川村博忠(東亜大学教授)・中川浩一(流通経済大学教授)・中島義一(駒澤大学名誉教授), 中村和郎(駒澤大学教授)の諸氏に謝意を表したい。

【注】

- 1) 釜瀬新平「論説：九州高等女学校が財団法人として独立するに至る迄」『同窓のおとづれ』第18号(開校15周年記念号), 九州高等女学校, 1921年(大正10), 7頁。
- 2) ①資料3：釜瀬新平「地理模型製作方 発明の沿革」1900年(明治33)～1901年。(本人自筆)。②釜瀬新平『小学校地理教授私見』地理模型研究所, 1902年(明治35), 47～48頁。
- 3) 前掲 2) ①によれば釜瀬式練紙の発想は, 1896年(明治29) 宮崎八幡宮に参詣のとき, 絵馬堂に奉納されていた木馬の顔に, 参詣者が紙を口で噛み, 吹き飛ばして付着すれば願望成就としていた。付着した紙が乾燥して堅くなり, 木馬は真白になっていたことにヒントを得, 和紙を水に解かし, 繊維に布海苔のりを加えて練り上げたものを使用した。従来から張り子製のものがあったが, 伸張性に乏しく脆もろさがある, 大きな模型には不向きであったと述べている。
- 4) 「福岡日日新聞」は1877年(明治10)創刊の「筑紫新聞」が前身。1880年に福岡県初の日刊紙となり, 福岡日日新聞と改称。自由民権運動の推進力となった。1942年(昭和17)に「九州日報」と合併し, 現在の「西日本新聞」となった(『福岡県百科事典』西日本新聞社, 1982年, による)。
- 5) 釜瀬新平の地理模型について次のような短評的紹介はある。

「地方地理学界の展望第57回, 福岡県の巻・其ノ三」『地理学』第6巻第7号, 古今書院, 1938, 134～135頁。この中で釜瀬は地理模型が地理教育に及ぼす効果大であるとして, 心血を注ぎ, 海外に輸出する日本交通模型図を依頼されて名声を留めた模型地図製作の第一人者と評している。

田中耕三『地名と地図の地理教育—その指導の歩みと課題』古今書院, 1996, 197頁。この中で, 釜瀬新平『小学校地理教授私見』(1902)の, 地理模型は絵地図に勝る, との主張が紹介されている。

- 6) 農商務省編『聖路易万国博覧会本邦参同事業報告第一編』1905, 695頁。日本出展の美術・工芸などはセントルイス市博物館をはじめ, 各地に寄贈されたが, 通運館と鉱山館出展物は「破却」と記されている。巨大なために持ち帰りの荷造りや輸送費, そして何よりも日露戦争中で, 海上輸送事情の緊迫していた関係などが理由と考えられる。
- 7) 所在地：福岡市中央区荒戸3丁目4番2号, 九州女子高等学校歴史記念館。
- 8) 田中克彦「国立国会図書館所蔵博覧会関係資料目録」『参考書誌研究』第44号, 1994。この目録に収載された諸文献。
- 9) 「九州日報」は1887年(明治20), 福岡の頭山満らが創刊した玄洋社の機関誌「福陵新聞」が前身。1898年(明治31)に「九州日報」と改称。以後は前記4)と同じ(『福岡県百科事典』西日本新聞社, 1982年, による)。
- 10) 吉田光邦編『図説万国博覧会史』思文閣出版, 1985年, 192頁。
- 11) 明治36年「米国聖路易万国博覧会出品 大日本帝国地理模型設計書」, 東京神田三崎町一丁目赤田根□□□ニ於テ釜瀬新平。清書ハ弟富太郎在京中ノ為呼寄セ命ズ。明治36年9月13日。
- 12) 筆者が福岡県英彦山小学校に在学中(1935～41年), 教室壁の壁に図4の福岡県と九州の地理模型が掛かっていた記憶がある。
- 13) 河邊光次郎編『偉材釜瀬新平』財団法人九州女子高等学校, 1933(非売品), 78頁。
- 14) 前掲13), 79～84頁。
- 15) 釜瀬新平(自筆)「原料及製作手数□□豫算書」

(1903年, 明治36)によれば, 博多人形師への発注予定の汽車模型100個で100円, 船舶50艘は300円としている。因みに地理模型台板系の事務員月給は15円であった。

- 16) 前掲 6) 『万博報告書』の内容は簡略で, 「大都市 6, 中都会800 (2~3階の瓦屋根), 村

落15,000 (草葺平屋)」とのみ記載しているが, 図2を拡大してみると, 釜瀬新平の設計書にみえる表現が採用されたようである。

- 17) 前掲13), 87~91頁。
18) 前掲13), 92~93頁。
19) 前掲2) ②, 1~2頁。